



第24回
国際土岐コンファレンス
市民学術講演会

恐竜時代の 巨大隕石衝突

～岐阜からみつかった世界初の証拠～

岐阜県の木曾川川岸に露出する「チャート」とよばれる
岩石中に残されていた隕石衝突の証拠「スフェール」。
世界で初めて明らかになった隕石衝突の証拠とその研究を中心に、
恐竜時代の始まりと終わりにおこった
隕石衝突についてやさしく解説します。



スフェール



講師 尾上 哲治

熊本大学大学院
自然科学研究科地球環境科学講座
准教授・博士(理学)

ONOUÉ TETSUJI



2014 **11/5** 水

18:30より(開場 18:00)

会場

土岐市産業文化振興センター
セラトピア土岐

土岐市土岐津町高山4番地

入場
無料

お問い合わせ 自然科学研究機構 核融合科学研究所 大学院連携係
〒509-5292 土岐市下石町322-6 TEL:0572-58-2843 FAX:0572-58-2603
<http://itc.nifs.ac.jp/>

主催：大学共同利用機関法人 自然科学研究機構 核融合科学研究所
総合研究大学院大学 物理科学研究科 核融合科学専攻
後援：文部科学省/岐阜県/岐阜県教育委員会/土岐市/土岐市教育委員会
(一社)プラズマ・核融合学会/核融合科学研究会/中部ESD拠点協議会



第24回 国際土岐コンファレンス 市民学術講演会

恐竜時代の 巨大隕石衝突

～岐阜からみつかった世界初の証拠～

恐竜は巨大隕石の衝突により絶滅した—このような説が1980年米国の研究者のアルバレス親子により提唱されてから、約30年が過ぎました。この間研究者は、恐竜が絶滅した6500万年前の「白亜紀/古第三紀境界」とよばれる時代以外からも隕石衝突の痕跡が見つかるはずと考え、これまで多くの研究がなされてきました。しかし実際に生物の絶滅を引き起こしたような隕石衝突は、白亜紀/古第三紀境界以外からはみつかりませんでした。そのため、生物の絶滅を引き起こすほどの巨大な隕石衝突は、白亜紀/古第三紀境界だけだったのではないかと考えられるようになってきました。

ところが最近になって、恐竜時代の黎明期にあたる約2億1500万年前(三疊紀後期)の地層から隕石衝突の証拠がみつかりました。この隕石衝突の証拠は、なんと岐阜県の本巣川川岸に露出する「チャート」とよばれる岩石中に残されていました。推定された衝突隕石のサイズは最大で直径約8kmと巨大なもので、この衝突が当時の地球環境に大きな影響を与えたことが予想されました。本講演では、日本から世界で初めて明らかになった隕石衝突の証拠とその研究を中心に、恐竜時代の始まりと終わりにおこった隕石衝突についてやさしく解説します。



講師

尾上 哲治

ONOUE TETSUJI

熊本大学大学院自然科学研究科地球環境科学講座准教授、博士(理学)。2000年熊本大学教育学部地学教室卒業。2005年九州大学大学院博士課程修了。2005年鹿児島大学理学部助手、同大学助教を経て、2013年より現職。2007年より米国モンタナ大学客員研究員。専門は地質学、特に地質学、現在は地層に残された地球外物質の研究に関心を持つ。2012年日本地質学会小論文賞、2013年日本地質学会小澤権明賞受賞。主な著書に地球全史スーパー年表(岩波書店)がある。



会場

土岐市産業文化振興センター セラトピア土岐

土岐市土岐津町高山4番地

お問い合わせ 自然科学研究機構 核融合科学研究所 大学院連携係
〒509-5292 土岐市下石町322-6 TEL:0572-58-2843 FAX:0572-58-2603

<http://itc.nifs.ac.jp/>